



無機質になりがちなトイレ空間に大胆な色を採用。中学生は教室の移動途中にトイレに行くこともあるので、カウンターは荷物が置けるタイプを選んでいる。

「小便器まわりの壁と床には、防汚・防臭機能素材を採用した」と塩野谷さん。



女性職員用トイレの温水洗浄便座。電池交換をしなくていいように、ボタンを押すたびに発電するリモコンを採用。



女性職員用トイレの洗面台には透明感のあるカウンターを採用。洗面器は水はねを低減するタイプに。

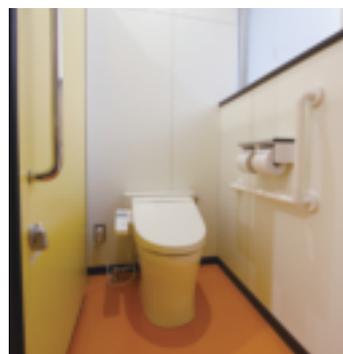
▶災害時は避難所になることから1階にオストメイト対応の多機能トイレを設置。



▲掃除口がついた大便器で、万一異物が詰まっても安心。



▼掃除用シンクはバケツも置ける深さのあるものを採用。



ケガをした生徒を想定し、各トイレに温水洗浄便座と手すりつきブースを設置。



愛知県豊川市立 おとわ 音羽中学校

教育環境の改善のため
使い勝手の良さを追求

「以前は暗く、においもひどかった。今は『すてき、すっきり、素晴らしい』の3Sで大満足」と改修後のトイレを喜ぶのは音羽中学校の鈴木富士子校長。

豊川市は教育環境の改善のため、平成24年度より順次トイレの改善に取り組んできました。いくつかの改修を手がけてきた教育委員会の塩野谷宜和さんは「心がけているのは使う人の立場に立つこと。子どもたちや教職員に少しでも快適に使ってほしいから、要望も聞きますし、一般的によいといわれるものができるだけ試しています」

例えば、今回はおいの解消が大きなテーマであったことから、床や壁に防臭効果が高いとされる素材を採用。また、「教育環境に色を使うと効果がある」との論文を読み、色も積極的に取り入れました。塩野谷さんは、「チャンネルジシ、いいとわかれば、どんどん次の改修に生かし、少しでもいい環境をつくりたい」と熱く語りました。